

生母さんの子供探し

【 現在の特別養子縁組制度には発展途上の部分がある 】

新生児特別養子縁組は必要な制度です。この制度があることによって 自分で子供を育てることができない苦境に陥った母親が子供を遺棄死させたりあるいは親子心中しないで済んでいるのです。この制度は必要な制度です。ですがこの制度は完成された制度ではありません。発展途上の制度です。

【 ルーツ探しをするのは子供だけか 】

現在の日本では特別養子縁組が成立すると生母さんの親権は終了し生母さんが子供と面会することや交流することも終了します。たとえ生母さんが子供と交流(写真 手紙 プレゼント メール 動画 クリスマスの贈り物)したいと望んでも子供にメッセージを送ることはできません。生母さんが子供に面会したいと望んでも子供に会うことは止められていますし探すこともできません。なぜなら生母さんは子供を探すことを禁じられているからです。生母さんが子供と会えるのは子供が生母さんを探しに来た時だけです。なぜなら子どもが自発的に探しに来たときだけが面会するための前提とされているからです。

ところが子供はそもそも養子であることを隠されていることもあります。告知されていないこともあります。親探しをしてはならないと思いついでいることもあります。子供が養親に気兼ねして言い出せないこともあります。親探しをしようにも両親が拒否していることもあります。そもそもどうやって親探しをしたらいいのか分からないこともあります。戸籍が辿れないことがあります。生母さんの居住地が分からないこともあります。子後が生母さんに会おうと思ったらこれだけの試練をかいくぐらないと会うことができないのです。それなのに生母さんはただひたすら待つしかありません。なぜなら生母さんは子供を探してはならないと言いつけられているからです。そして生母さんも子供が幸せに育っている家庭を壊してはならないと考えています。子供が大好きで子供がどんなに大きくなっているか思い出してしまい涙していることもあります。子供が自分を探し始めたらそこでやっと会える。そう言いつかせて子供に会いたいのを我慢しているのです。子供が必ず探しに来ると信じて。

【 コラム ある生母の子供探し 海外の事例について 】

私の娘が養子に引きとられてもう〇〇年 私はずっと娘の行方を捜していた。なかなか娘の行方は知ることができずにいたが 偶然同じ年齢の娘を育てている養親さんを見つけることができた。さらに詳しく調べるとその娘の誕生日も私の娘の誕生日と同じで顔がとても似ていた。直感的に(私の)娘だと思った。けれどもその当時は生母が養子を探すことは禁止されていたし 娘はまだ若かったので我慢した。

けれども自分から娘に直接的な接触は行わないが 自分が探しているということは娘に伝わるよう工夫することにした。『 私(生母)はこんなにもあなた(娘)を愛しているよ。そしてこんなにもあなた(娘)を探しているよ 』というメッセージが伝わるように尋ね人を装いチラシを作った。結果的にはうまくいかなかったがその過程で生母の支援団体と繋がることができた。

【 母親の子供探し 米国の取り組みについて 】

米国では生母が養子の行先を探す際 あるいは面会を希望する際 支援事業者を訪問します。その際支援事業者は養親に電話連絡を行い『 生母さんが養子ちゃんとの面会を希望していますが面会することは可能ですか？ 』と意向を確認します。現在の米国の法律では 養子が生母を捜索し面会することは可能としていますが 生母が養父母の許可なしに養子に面会することは出来ない仕組みになっています。生母さんと養親さんは双方ともお互いの連絡先を知らされていません。生母さんには子供の居住地を知る権利がなく調べる手段も無いので 子どもから探そうとしなければ探すことができなくなっています。米国においても生母さんの社会的地位は低く生母さんの知る権利はまだ軽視され制限されています。

ところが最近になって これはおかしいのではないかと生母さんからも養子さんが捜索できるようにするべきではないかと制度を作り変えている州もあり 生母さんから探せるようになった国もあります。今後は生母さんからも子供が探せるように変化していくものではないかと考えています。米国では子供が生母さんを捜索するには 700\$ ぐらい必要と言われていますが 双方が少しでもいいので連絡を取り合ってさえいれば すぐにたどり着けます。そのため写真のやり取りや手紙のやり取りでもいいので双方が合意できているならば関係性を維持したほうがよいと言われていいます。そのため細かい糸でもいいので連絡を絶やさないようにしているのは再会のことを考えてのことです。

【 生母さんの子供探し 日本でするとしたら 】

生母さんが支援事業者を介して特別養子縁組したのであれば 支援事業者のもとに子供に会いたい

【 コラム ある生母の意見 米国での聞き取り 】

どこの誰であろうと自分自身の大切な情報について知ろうとする権利は妨げることのできない自然の権利です。この知りたいという権利は誰も邪魔することはできません。自分の親は誰なのか誰もが知っている当然の情報です。知らない方が幸せと米国でもかつては教えられていました。それは子供の心を知らないからであり養子の望みとは異なっています。

自分のルーツについて知れないまま悲嘆し自死してしまった養子もいました。養子は幸せといわれていますが知りたいことも教えてくれないのに本当にそう思っているのでしょうか。

生母に至っては置き去りにされて奪われるだけです。生母は幸せになっていません。養親さんになる人はお金持ちで教養があつていい生活をしている。そんな養親さんに育てられる方が養子は幸せになると私達（生母たち）は教えられていました。だからお金もない学歴もない生母はうなずくしかなかったのです。そしてそうならざるを得なかった自分を責めていました。とてもつらかった。自分が育てるだけの価値がないから経済力がないから養子にしてしまった。そしてそういう時代でした。

娘と再会できた今は 私は幸せであり娘とも交流もあり今はこれで良かったと思えるようになりました。しかしそうではない養子の話（親探しを断られて自死した 精神を病んで病死した）を耳にすると胸が張り裂けそうになります。出自について秘密にしたまま親について子供を会わせないままで養親さんが子供を幸せにするのは無理があるのではないのでしょうか。

【 コラム すねた子供 】

子供は『 お母さんはもう僕のことなんてまったく気にかけていないさ 』『 どうせ僕はいら
ない子供さ 捨てられたのさ 』 といじけてすねていることがあります。でもこっそり聞くと
『 おかあさんに会いたい お母さんどうして僕と一緒に居れないの 』『 お母さんと手をつ
ないでいる子を見るとうらやましい お母さんと手をつなぎたい 』 といいます。そしてこっそ
りお母さんにもし会えたらなんて言いたい？と尋ねると 『 お母さん大好き 僕 お母さんのこ
と大好きといって ぎゅーしてもらいたい 』 でした。

【 コラム 子どものころはいつも母親の傍に居る 】

『 子供は養親さんのことを心から愛するようになったら私（生母）のことなんてもう忘れてしま
っているわよ。子供は大きくなってしまったらもう私（生母）のことなんてどうでもよくなってい
るわ。私（生母）のことなんてもう探す気なんて起こらないわ 』という誤解を母親はしています。

いかに子供が養親さんと良い家族関係が築けていたとしても 母親と一目会いたいと感じるこ
とは別物です。子供からすると 自分の母親に会いたい 会えないのであれば母親についてせめ
て知りたいと思うのが当然の感情です。そしてそれはどの年齢になっても変わりません。子供は60
歳になっても 母親が死去していたとしても 母親についての情報がゼロの状態でも（そもそも年
齢から考えると生母に会える可能性はないのですが）それでも自分の母親を探しに来ます。あるい
は孫が意向を汲んで探しに来ることもあります。子供にとって母親は母親なのです。恋しいのです。
忘れられないのです。

【 養子縁組は心を汲み取る事業である 】

養子縁組支援事業は心を汲み取る事業だと思っています。母親と伴走して苦楽を共にした数か月
は支援者にとっても忘れられない記憶になります。母親との数か月の奮闘が終わると母親は日常に
戻りますが 一緒に奮闘したスタッフも母親が去るとともに物悲しいというか祭りの後のような
寂寥感を感じます。ぜひスタッフさんにも想いや感情を記したメッセージ（寄せ書き 応援メッセ
ージなど プレゼント）を作成させてあげてください。スタッフだって溢れ出てくる感情がありま
す。苦勞した子供（母親）ほどかわいいというか今頃どうしているんだろうかという寂寥感が不意
にやってきます。折に触れ追加のメッセージ（お手紙 寄せ書き）やイベント（お茶会）を開催し
てもかまいません。支援者はいつも母親の傍に居ます。